

つじなが便利



第221号

発行日 H27. 2. 1

発行 辻中眼科

編集担当者 安田 梨紗

○診療時間 月・水・金 → 午前(9時~12時) & 午後(3時30分~6時30分)

火・木・土 → 午前(9時~12時)

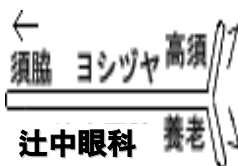
○休診日 日曜・祝祭日・火、木、土曜日午後

○ホームページアドレス <http://www.tsujinaka.jp>

つじなが便利

検索

← クリック!



○Eメールアドレス tsuji_con@mti.biglobe.ne.jp

イタリア人はお好き？

院長 辻中まさたけ

連休を利用して勝手気ままにミラノ、フィレンツェ、そして、ローマをウロウロしてきた。行き帰りの航空券と宿泊場所、それにネットで予約したレオナルドダヴィンチの「最後の晚餐」を見る予約だけをしておいて、後は行き当たりばったりの気まま旅行であった。「最後の晚餐」をみた印象は次回にさせていただくことにするが、ラテンの地、イタリアの国の方々はとにかく絡むのが好きな感じの性格の方が多いように思えた。道を聞くとつたない英語や現地のイタリア語で一生懸命に説明してくれる人が多いし、レストランでもメニューを選ぶときに、自分が食べる時のようにドンドン話に入ってくる(汗)。

妻と食事に入ったレストランでの話。ウェイターに料理を二人分まとめて注文しようと私がすると、
ウェイター「(英)スイマセン、女性が先です。」

(次ページへ続く)

私 目が点

妻 即座に「(英)では、パスタ二皿とミネラルウォーター2本」

ウエイター 「(英)そんなに、たくさん！食べらないですよ！！」

妻と私 苦笑…



日本人は協調が大事であると教えられているが私は感じているが、ここ、イタリアでは自己主張が大事みたいである。日本人は外見上いつもニヤニヤしていて腹で何を考えているかわからないと世界から云われているが、出来るだけ争いを避けるためにしていることをわかってほしい、奥が深い民族なんだ。

平成 27 年 1 月 13 日



←N・Tさんよりいただきました

往診について

往診をご希望の方は
院長までご相談ください。

神秘の藻か？「ドナリエラバーダウィル」！

イスラエルの死海に生息するとても不思議な微細藻類ドナリエラバーダウィルをご存知でしょうか？

死海の塩分濃度は35%以上と言われ、魚や水鳥なども生育する事ができません。まさに死の海ですが、そこに微細藻類ドナリエラバーダウィルが生育しているのです。

ドナリエラバーダウィルは、乾燥物中 5~10%もの天然β-カロテンを含むため、ニンジンと比べても約900倍多いと言われる神秘的なオレンジ色の微細藻類です。

β-カロテンは、一般に着色料などとして化学合成される合成β-カロテンと、野菜や果物などの天然植物に含まれている天然β-カロテンがあり、天然β-カロテンは、緑黄色野菜の摂取を推奨される一因になっています。ドナリエラバーダウィルの中にはオールトランスβ-カロテンとナインシスβ-カロテンが1:1の割合で含まれており、このバランスの良さが特長とされています。

日本栄養士会からの、生活習慣病予防を心がけた食事の推奨にも、緑黄色野菜をしっかり取り入れる事が挙げられています。

イスラエルのテルハシヨメルにあるテルアビブ大学医学部附属シバメエディカルセンター脂質・動脈硬化研究所のアビブ・シャイシュ博士らの研究では、HDL コレステロール（善玉コレステロール）が低く、中性脂肪が高い患者で、脂質代謝異常治療薬（フェノフィブレート）を投薬して治療している24歳~65歳の糖尿病を含む通院患者合計22名に対して、ドナリエラバーダウィルをカプセルに詰めて毎日朝2カプセル、夜2カプセルの4カプセル（天然β-カロテン60mg以上）ずつ90日間摂取させたところ、1回目の90日間摂取の調査では20名中14名（70%）のHDLコレステロールが平均24.5%改善され、更に2度目の90日間摂取による調査では、11名中8名（72%）の患者のHDLコレステロールが平均12.5%改善し、中性脂肪が平均26.7%下がったようです。※1

脂質異常症や糖尿病は、動脈硬化などの合併症を引き起こすリスクが高くなるため、生活習慣病の予防や治療的補助に役立つ食品として期待されると考えられています。

生活習慣病に対するドナリエラバーダウィルの可能性は、イスラエル動脈硬化研究会・予防治療学会・イスラエル糖尿病学会合同会議でも、アイエレット・ハラリらにより、ドナリエラバーダウィルのナインシスβ-カロテンが、細胞のマクロファージに蓄積し、そこからHDLコレステロールを放出する事でHDLコレステロールの増加が行われるメカニズムを発表しました。この発表では、合成β-カロテンには有用性が見られず、天然β-カロテンを多く含むドナリエラバーダウィルでその有用性が見られたようです。※2

日本においても、第51回日本糖尿病学会にて、東京大学大学院糖尿病代謝内科山内らによって、脂質代謝異常治療薬（フィブレート系薬剤）とドナリエラバーダウィルの併用研究が報告されました。

この研究によると、脂質代謝異常治療薬（フィブレート系薬剤）とドナリエラバーダウィルを併用する事で、糖尿病マウスの血糖値を抑制し、インスリンの抵抗性を改善させる可能性が報告されたのです。

糖尿病は、網膜症を合併する事で糖尿病性網膜症は、失明原因の2位にもあがっています。

（次ページへ続く）

また、他の文献ではドナリエラバーダウィルの、網膜色素変性に対する臨床報告があります。網膜色素変性症の治療の研究では、近年 ips 細胞による臨床研究も行われましたが、まだ副作用の確認を行っている段階であり、実用化にはもうしばらく時間がかかりそうです。

ドナリエラバーダウィルでも網膜色素変性症の患者に対する研究が行われています。これは、米国での眼科学会や、日本臨床眼科学会、日本眼科学会でも報告されておりますが、その中で、イスラエルで行われた臨床報告の御紹介をします。

18 歳以上の網膜色素変性症患者 29 名に対して半数にドナリエラバーダウィルをカプセルに詰めて朝 2 カプセル、夜 2 カプセルの毎日 4 カプセル（天然β-カロテン 60m 以上）摂取、残り半数にはでんぷんをカプセルに詰めて 90 日間摂取した後に網膜電図や視野の変化を測定しました。

その後 90 日間は何も摂取せず放置し、体内のβ-カロテンを完全に代謝させた後、今度は、でんぷんを摂取していた半数にドナリエラバーダウィルを、ドナリエラバーダウィルを摂取していた半数にでんぷんを 90 日間摂取させるクロスオーバー二重盲検試験により、再度網膜電図と視野の検査を行いました。

その結果、ドナリエラバーダウィルを摂取した場合、患者の網膜電図が 34.5%改善され、視野が 17.8%改善されていたようです。

これにより、ナインシスβ-カロテンとオールトランスβ-カロテンが 1:1 で含まれている天然の微細藻類ドナリエラバーダウィルの網膜色素変性症の治療における可能性が示されたようです。※3

今後の更なる研究に期待すると共に、現在有用な治療方法が見つかっていない網膜色素変性症に対する新たな光が見え始めたのかもしれない。

神秘の藻ドナリエラバーダウィルは、糖尿病、動脈硬化、眼障害における医薬品特許を取得しており、この天然素材である神秘の藻で、近年増え続けているメタボリックシンドロームの予防や治療補助、合併症の治療補助や、網膜の疾患に対して食品として有用に利用される日が来るかもしれません。

※1. Atherosclerosis 189 (2006) 215-221

※2. Bio med research international, 2013, Article ID 169517, 7

※3. JAMA Ophthalmol, 2013, 8, 131(8):985-992

※ツジナカCONTACTで販売しております、

ご用の方はお申しつけ下さい。

院外処方箋のお話

当院では、かかりつけの薬局で薬をいただける院外処方箋の発行をおこなっております。

ご希望の方は、受付までお申し付けください。